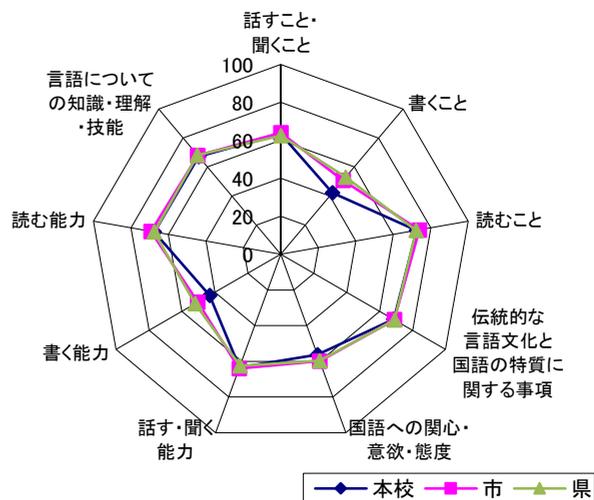


宇都宮市立横川中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	63.4	64.0	62.5
	書くこと	42.2	50.9	53.1
	読むこと	72.5	73.9	72.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	68.5	68.9	69.1
観点	国語への関心・意欲・態度	56.3	59.9	59.7
	話す・聞く能力	63.4	64.0	62.5
	書く能力	43.2	50.4	52.0
	読む能力	67.5	69.3	67.6
	言語についての知識・理解・技能	67.2	67.9	68.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	<p>○平均正答率は63.4%で、県より0.9ポイント上回っている。</p> <p>○「大事なことを落とさないように聞き取ることができる。」の正答率は、100%と高く、県よりも4.4ポイント上回っている。</p> <p>●「話題に沿った意見と理由を考えて話すことができる。」の記述式の設問は、平均正答率は、68.8%と県より1.1ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科だけでなく学級活動や他教科に話し合い活動を意識的に取り入れていくことで、話し合いの仕方を身に付けていくようにする。ペアやトリオなどグルーピングも工夫する。 ・自分の意見を話すときには、賛成や反対の意思表示をし、その理由を述べるなどの話型の定着を図る。話型は、朝のスピーチでも活用していく。
書くこと	<p>●平均正答率は42.2%で、県より10.9ポイント下回っている。</p> <p>●どの設問でも、無回答率が28.4%と県より7.3ポイント上回っている。</p> <p>○「理由や事例を挙げて文章を書くことができる。」の平均正答率は県より下回るものの、県の平均正答率に近い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事など様々な活動で、書く活動を多く取り入れる。また、友達の文章を読む経験を通して、いろいろな書き方や考え方があることを意識させる。 ・生活文だけでなく、報告文、レポートなど多様な文章形式を読む機会を増やす。まとめることや書くことへの抵抗を減らし、興味関心をもって取り組めるようにしていく。 ・自分の思いや意見を文字や文にまとめる活動を、授業に意識的に取り入れる。 ・手本を視写する活動を通して、書き方を身に付けさせる。
読むこと	<p>○平均正答率は72.5%で、県より0.3ポイント上回っている。</p> <p>○特に、「場面の様子を読み取ることができる。」「目的や必要に応じて、場面の様子と登場人物の気持ちを読み取ることができる。」の設問では、県より、それぞれ4.0ポイント、5.2ポイント上回っている。</p> <p>●「段落の役割を理解して、文章の内容を的確に読み取ることができる。」の設問の平均正答率は、44.3%と低く、県よりも5.1ポイント低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科の時間を通して、物語文の叙述に基づいて正確に内容が捉えられるよう指導する。 ・家庭学習の音読だけでなく、学校図書館の「チャレンジブック」を活用し、読みごたえのある文章に触れさせていく。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	<p>●平均正答率は68.5%で、県より0.6ポイント下回っている。</p> <p>○「悩み」「悲しい」の漢字の読みや「農業」「坂」「整える」の漢字の書きは、県の平均正答率を上回っている。特に、「悲しい」の漢字の読みの平均正答率は、97.7%と高く、県より1.0ポイント上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ローマ字表記や読みについては、国語科の授業だけでなく、総合の調べ学習や日常生活において扱い、定着を図っていく。 ・パソコンを活用し、プログラミング学習と関連付けてローマ字表記に慣れさせる。 ・「宮っ子ステップアップシート」や「漢字オリンピック」(漢字を定着させるテスト)などを通して、繰り返し漢字の読み書きを練習させ、定着を図る。